

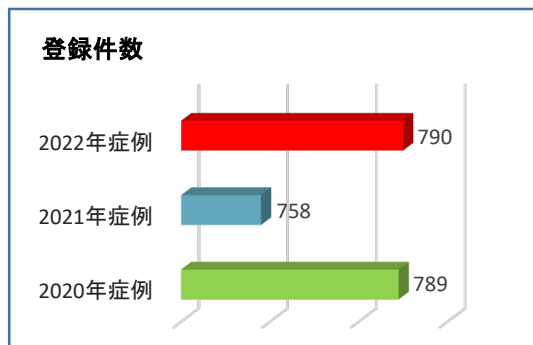
院内がん登録データに係る統計 — 2022年診断症例 —

診療情報管理室 院内がん登録担当

2022年の院内がん登録件数は790件で登録上位5部位は、「肺」118件、「大腸」97件、「乳房」91件、「皮膚」71件、「前立腺」60件であった。前年より32件増加し、部位別でみると特に増加したのは「皮膚」(+19)、「前立腺」(+15)であった。

男女別登録数は男性414件、女性376件で、男性の方が38件多かった。登録件数の最も多い肺癌では男性72件、女性46件と男性が女性の約2倍となっている。

登録患者の平均年齢は72.1歳で例年同様高い傾向にある。年齢分布でみると70歳台が最も多く、男性は60歳台から増え始める。一方女性は30歳台から増え始め、その多くが乳房、子宮頸部であった。

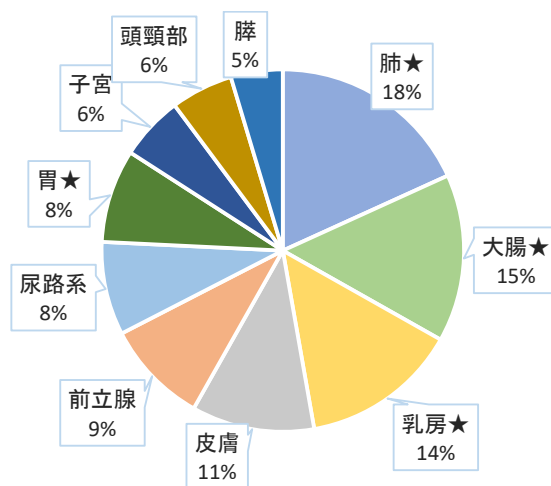


① 診断年別主要部位別件数

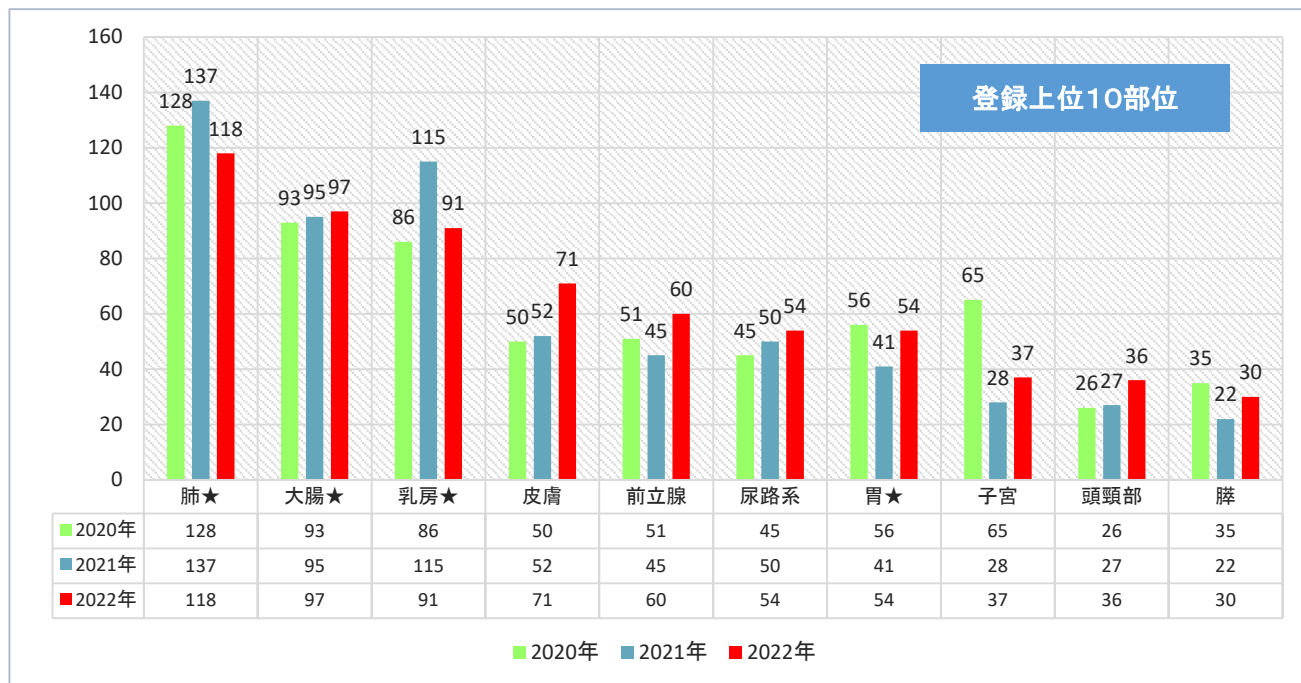
部位	2020年	2021年	2022年
肺★	128	137	118
大腸★	93	95	97
乳房★	86	115	91
皮膚	50	52	71
前立腺	51	45	60
尿路系	45	50	54
胃★	56	41	54
子宮	65	28	37
頭頸部	26	27	36
膵	35	22	30
肝★	30	34	24
脳脊髄	31	16	23
甲状腺	9	16	20
悪性血液	24	18	19
食道	9	12	12
その他	51	50	44

★は5大部位

登録上位10部位別割合

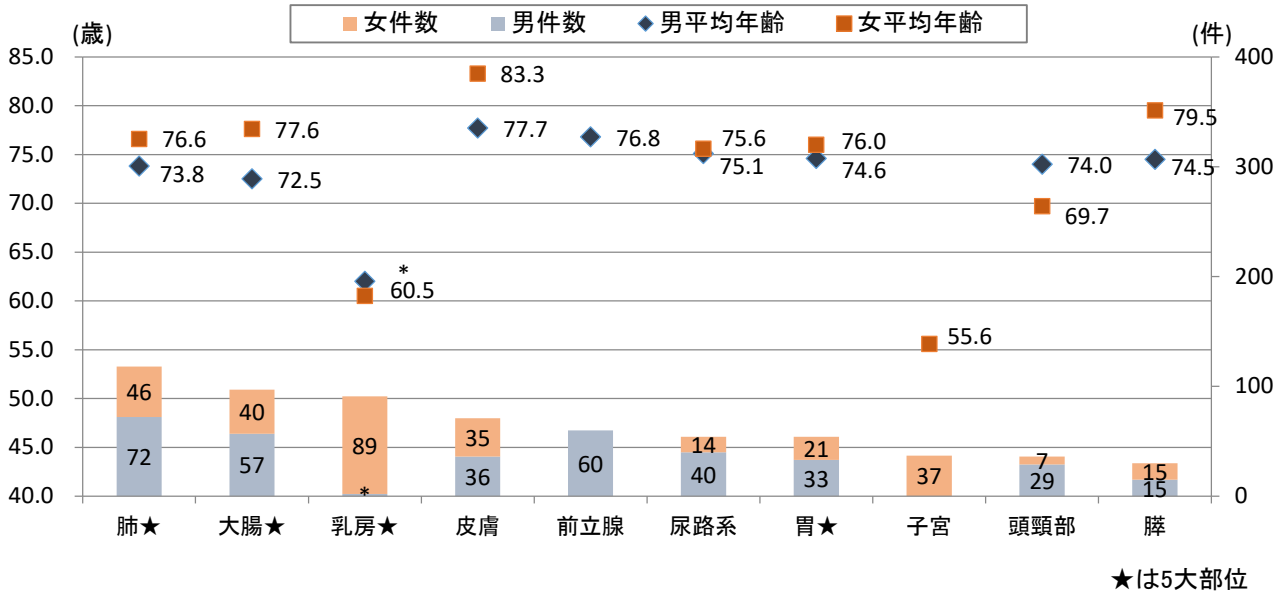


※大腸は結腸(76件)と直腸(21件)
 ※尿路系は膀胱(25件)、腎(17件)、腎盂(5件)、尿管(6件)、尿道(*件)
 ※子宮は子宮頸部(25件)と体部(12件)
 ※脳脊髄は脳腫瘍(19件)と脊髄(4件)
 ※悪性血液疾患は白血病、リンパ腫、骨髄腫、他の造血器腫瘍



※個人が特定できる可能性がある数値(3件以下)は「*」で掲載しています。

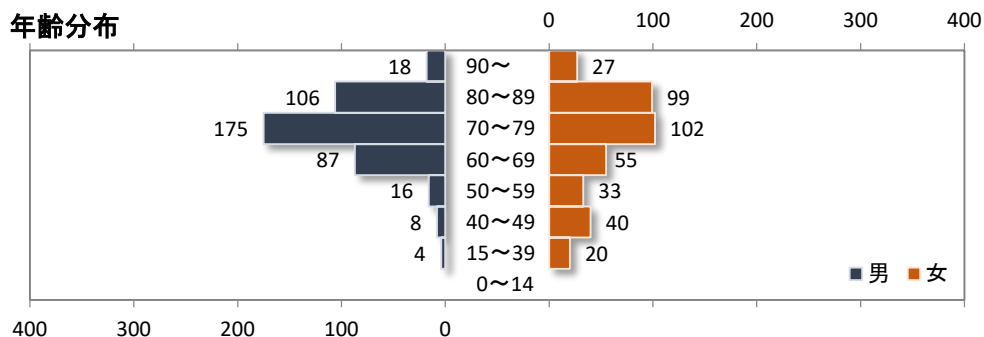
② 性別上位10部位別件数と平均年齢



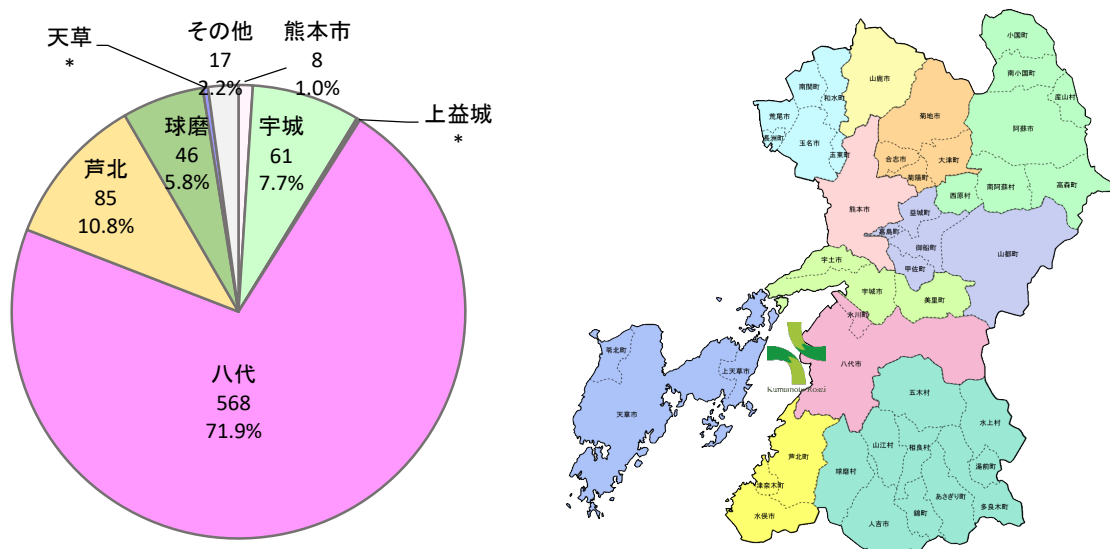
③ 性別年代別登録内訳と年齢分布

男性全体	0~14歳		15~39歳		40~49歳		50~59歳		
肺★	72		大腸★	*	胃★	*	咽頭	*	
前立腺	60		肝★	*	大腸★	*	大腸★	*	
大腸★	57		縦隔	*	肺★	*	肺★	*	
尿路系	40		脳腫瘍	*	皮膚	*	皮膚	*	
皮膚	36				甲状腺	*	甲状腺	*	
胃★	33				など		など		
頭頸部	29				計	8	計	16	
その他	18								
		60~69歳		70~79歳		80~89歳		90歳~	
肝★	17	肺★	19	前立腺	35	肺★	16	皮膚	4
腭	15	大腸★	12	肺★	32	前立腺	14	前立腺	4
食道	10	胃★	9	大腸★	29	皮膚	13	胃★	*
悪性血液	10	頭頸部	9	皮膚	13	大腸★	10	肺★	*
脳脊髄	9	前立腺	7	胃★	12	胃★	9	咽頭	*
甲状腺	6	食道	4	膀胱	9	肝★	7	喉頭	*
乳房★	*	など		など		など		など	
計	412	計	87	計	175	計	106	計	18

女性全体	0~14歳		15~39歳		40~49歳		50~59歳		
乳房★	89		子宮(頸部)	9	乳房★	25	乳房★	16	
肺★	46		乳房★	4	子宮(頸部)	8	胃★	*	
大腸★	40		甲状腺	4	脳腫瘍	*	大腸★	*	
子宮	37		卵巣	*	卵巣	*	卵巣	*	
皮膚	35		肺★	*	肺★	*	子宮(体部)	*	
その他	26				悪性血液	*	子宮(頸部)	*	
胃★	21				耳下腺	*	など		
腭	15				計	40	計	33	
尿路系	14								
脳脊髄	14								
甲状腺	14								
悪性血液	9								
頭頸部	7								
肝★	7								
食道	*								
計	374	計	55	計	102	計	99	計	27

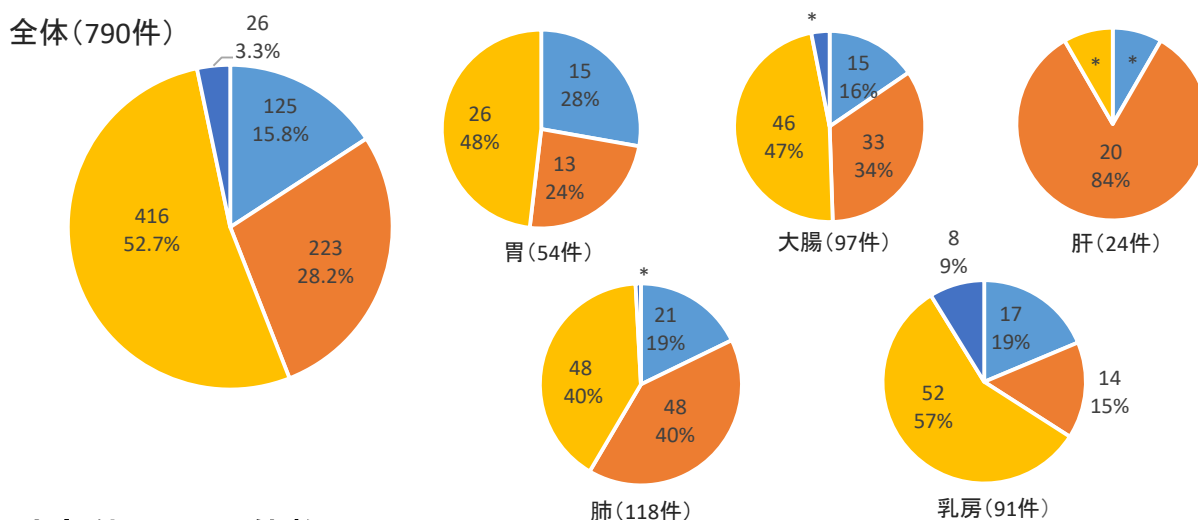


④ 患者住所医療圏別登録の状況

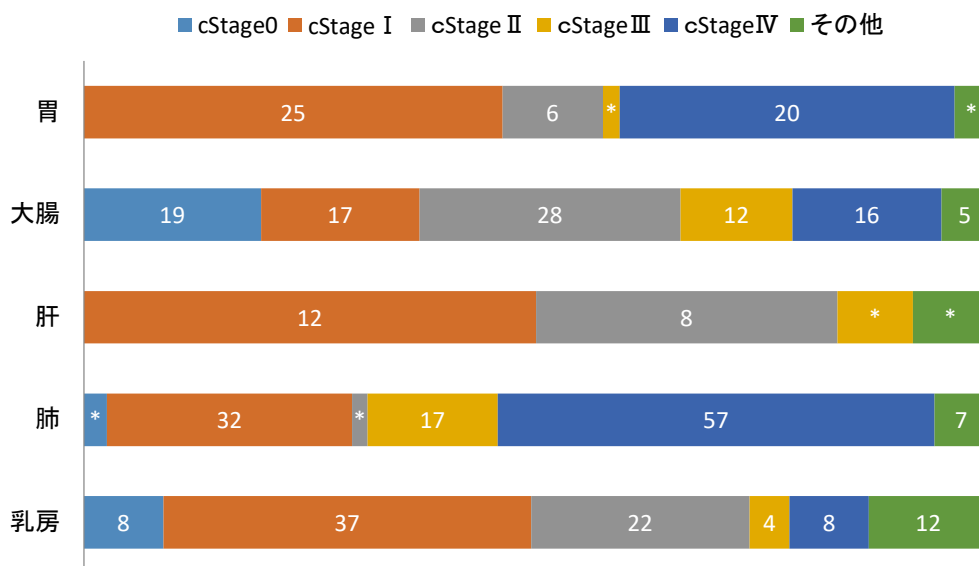


⑤ 発見経緯 5大部位の内訳

■ 1がん検診/健診/ドック ■ 3他疾患経過観察 ■ 4剖検(Ai含) ■ 8その他(自覚症状による受診含) ■ 9不明



⑥ 5大部位別Stage件数



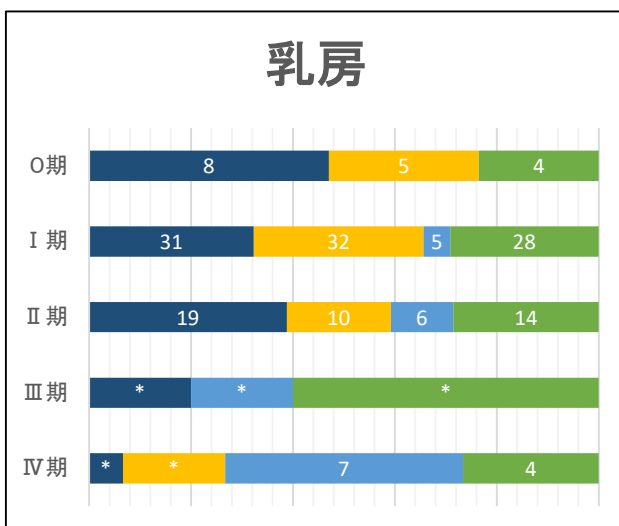
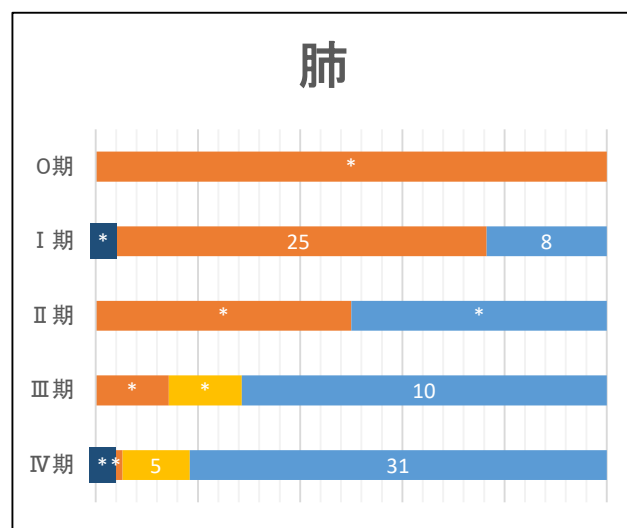
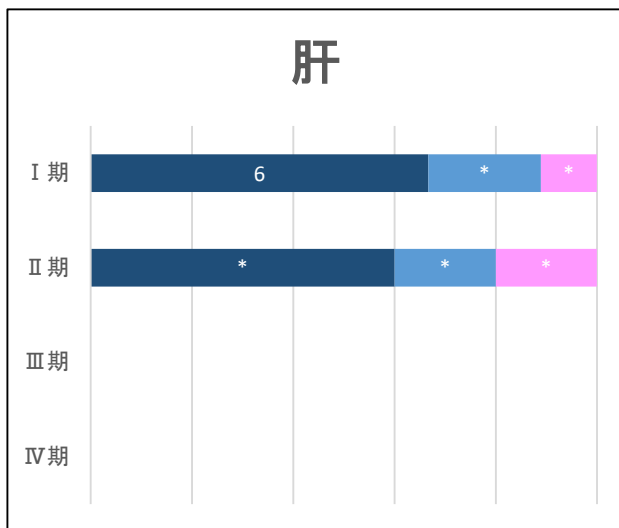
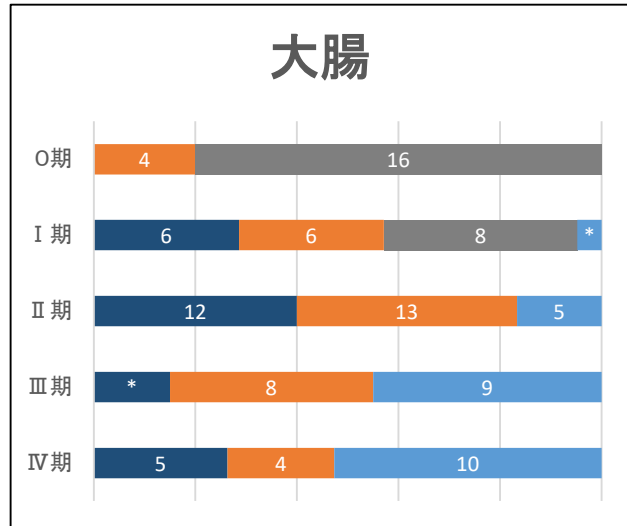
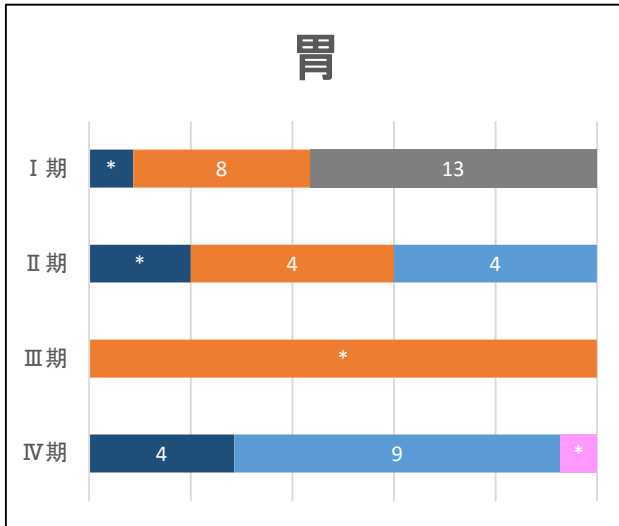
※ステージは総合ステージ【UICC分類第8版】

(術前治療なし・観血的治療例はpstage、術前治療あり又は観血的治療なしの場合はcStage)

※UICC病期分類がないもの、分類不明なものはその他で集計

⑦ 5大部位(総合Stage別)の主な治療

■ 外科的 ■ 鏡視下 ■ 内視鏡的 ■ 放射線 ■ 化学 ■ 内分泌 ■ その他(RFA等)



全登録部位において、自施設初回治療、他施設初回治療開始後の継続治療を行った症例629件は、手術療法383件、放射線療法88件、化学療法163件、内分泌療法90件、その他の治療(RFA等)6件、経過観察のみ88件であり、例年と同じく手術療法が最も多くなっている。

治療に関しては、高齢者・若年層に関わらず、症状が出現した状態で受診し、それらの多くが進行癌であることなどから外科的治療が出来ない場合が少なくない。特に登録件数の一番多い肺癌ではstageIVの割合が約48%を占め、このような症例が多くみられた。

※初回治療+継続治療症例のみ集計

※治療は単独、複数に関わらず各々積算